

# 株主通信

## 第78期

2018年1月1日~12月31日



宮崎日機装 外観写真

## 宮崎日機装がスタート

— 宮崎発で、世界標準をめざす —

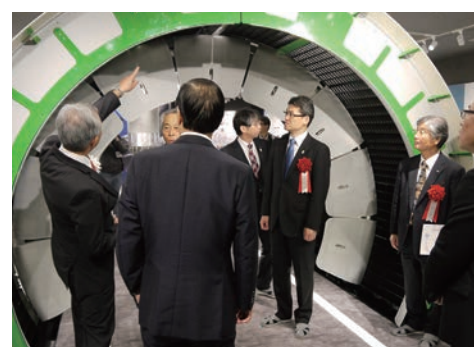
2018年10月、日機装グループ最大の敷地面積を持つ生産拠点となる、宮崎日機装の航空宇宙工場(カスケード棟・管理棟)が竣工しました。航空宇宙工場では、日機装が世界シェアの9割を占めるCFRP(炭素繊維強化プラスチック)製ジェットエンジン逆噴射装置用部品「カスケード」を生産しています。12月には「カスケード」以外の部品を生産するコンポジット棟も増設し、LCC(格安航空会社)の台頭を背景とした世界的な航空機需要の増加に対応していきます。将来的には、研究開発機能を持たせ、お客様との共同研究の拠点としても積極的に利用していくことを目指しています。

宮崎日機装は、航空宇宙事業の生産力を拡大させることだけを目的としているわけではありません。新しい事業環境やお客様の要請に応えるために、全事業部門にわたってモノをつくるプロセスを根本から見直し、先端の技術の確立と新しいモノづくりの在り方を実現する場として活用していく考えです。既存の東村山、金沢、静岡の国内工場やベトナムをはじめ世界各地のグループ工場を含めた生産体制の見直しと効率化をはかるとともに、全社にわたり技術者を育成することや品質管理体制を確立させることで、宮崎日機装を「技術の日機装」を背負う基幹工場に育てていくことを目指しています。



宮崎日機装株式会社 竣工

宮崎日機装カスケード棟・管理棟竣工式テープカット  
(2018年10月15日)



写真は「カスケード」が取り付けられた展示室の  
実物大航空機エンジン模型を見学する様子

# 日機装は次の成長ステージへ



代表取締役社長 甲斐 敏彦

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに日機装の2018年12月期(第78期)の事業概況をご報告いたします。

## 当期の業績について

当期(2018年12月期)の業績は、受注高1,724億円、売上収益1,653億円、営業利益103億円、税引前利益97億円、親会社の所有者に帰属する当期利益74億円となりました。

工業部門では、2017年後半からの原油価格の上昇に伴い原油・ガス上流分野の設備投資が再開されるなど受注環境が好転した結果、LEWA社やCryogenic Industriesグループ(以下、CIグループ)を中心に受注が増加しました。収益面では、クライオジェニックポンプ事業の好調がインダストリアル事業を牽引し、精密機器事業、航空宇宙事業の業績も堅調に推移したことから、前年同期比で増収増益となりました。

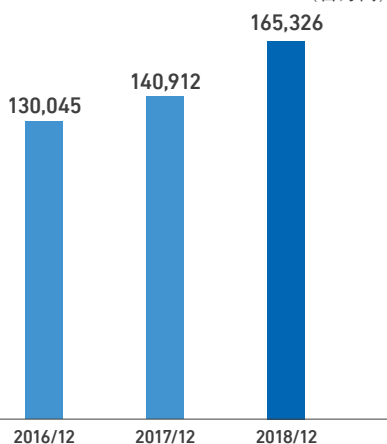
医療部門では、主力の血液透析関連事業において、透析装置の需要が低迷した昨年と比較すると、国内市場の需要が回復し、血液回路など消耗品全般の販売も伸長しました。海外市場においても、市場成長の著しい中国市場向けの販売が全体を牽引し、欧州やアジア圏でも装置販売が増加した結果、前年同期比で増収増益となりました。

## 来期の見通しについて

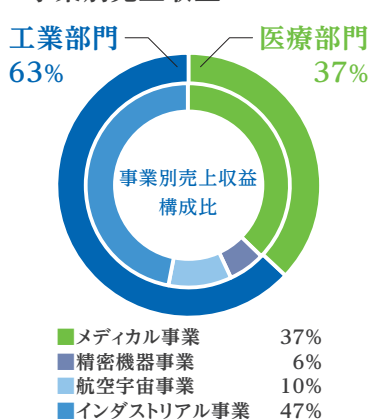
工業部門においては、引合いを確実な受注に繋げる努力を継続するとともに、グローバル展開加速に向けて、LEWA社、CIグループとの連携を強化すべく、拠点の相互活用や販売推進体制の統合などグループシナジーの強化を進めてまいります。

## 業績ハイライト

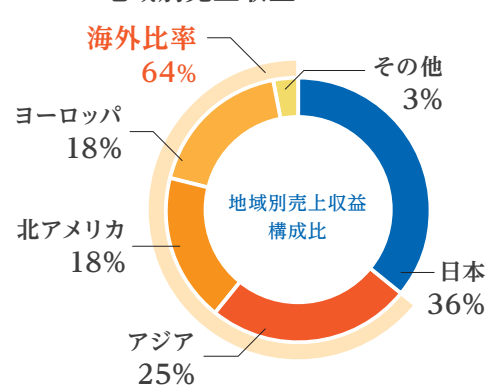
売上収益 (百万円)



事業別売上収益 (2018/1-12)



地域別売上収益 (2018/1-12)



航空部門についても、分散している生産拠点、生産体制の集約・最適化を進めるとともに、宮崎新工場を航空機部品の研究開発拠点としても機能させることで、更なる品質向上、コスト削減を実現し、お客様の要求に高い水準で応えられる事業基盤の整備を進めてまいります。

医療部門については、より一層、機能性、利便性に優れた新製品・サービスの開発と、それを支える事業運営体制の再構築および業務改革を着実に遂行するとともに、市場成長の著しい中国市場へのサービス体制の強化、医療保険制度の拡充が進む中国以外のアジア諸国、そして透析大国である米国においても、大手透析サービスプロバイダーとの提携等も視野に入れ、販売体制の強化を進めます。

## 中期経営計画の進捗について

原油価格の先行き不透明感、国内医療経済環境の変化など、当社を取り巻く環境は、依然として厳しいものと認識しています。しかしながら、中期経営計画「日機装2020」の4年目にあたる2019年12月期においては、これまで実行してきた成長投資が徐々に事業、収益の柱として花開く時機を迎えようとしています。CIグループ買収によるLNGバリューチェーンへの対応力拡張、宮崎・ベトナム新工場の本格稼働による航空宇宙事業の更なる伸展、グローバル透析

市場への挑戦と、各事業で具体的な施策を進め、具体的な業績として反映させる期になります。また、経営資源の配分を見直し、成長事業へ振り分けるために不採算事業の見極めなどを進め、グループ全体として骨太な利益体質を醸成してまいります。

## 株主還元について

当社は、財務健全性、資本効率および株主還元の最適なバランスを追求しつつ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現していくことを基本的な資本政策としています。継続的かつ安定的な利益還元は当社の資本政策の重要な柱であるとの基本認識のもと、業績、経営環境などを総合的に勘案した利益還元を行っていくとともに、新規事業の育成、生産体制の強化に向け内部留保を適正に再投資に振り向けます。

当期は、各事業の業績が概ね堅調に推移し、期初に公表しました連結業績予想を上回る結果となりました。営業利益100億円を安定的に維持できる目途がつき、また直近の財務状況等を総合的に勘案した結果、株主の皆様への利益還元を促進するため、当期の期末配当金を1株当たり8円から2円増配し、1株当たり10円とさせていただきます。すでに実施しました中間配当8円とあわせまして、当期の年間配当金は1株当たり18円となります。また、次期の年間配当予想については1株当たり20円としております。

### 当期実績と来期業績予想

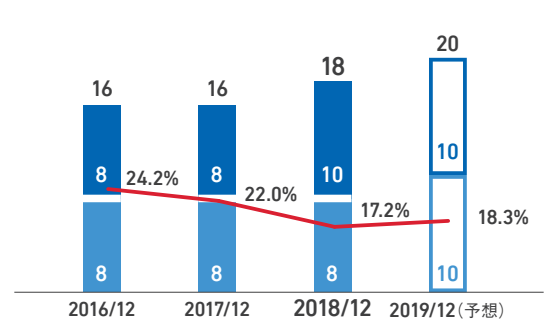
(百万円)

	当期実績 2018年12月期 (2018/1/1-12/31) [IFRS]	来期業績予想 2019年12月期 (2019/1/1-12/31) [IFRS]	前年同期比	
			増減額	増減率
受注高	172,492	174,000	1,507増	0.9%増
売上収益	165,326	172,000	6,673増	4.0%増
営業利益	10,302	11,000	697増	6.8%増
税引前利益	9,741	10,600	858増	8.8%増
親会社の所有者に帰属する 当期利益	7,448	7,800	351増	4.7%増

※来期業績予想の前提としている為替レートは、109円/米ドル、125円/ユーロです。

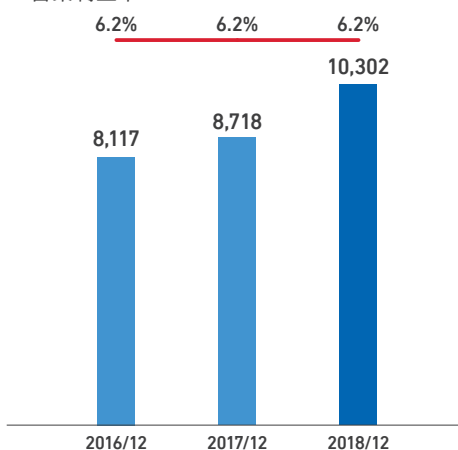
### 配当実績

(円)



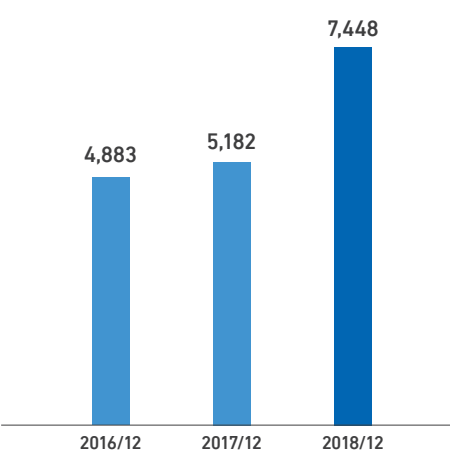
### 営業利益

— 営業利益率 (百万円)



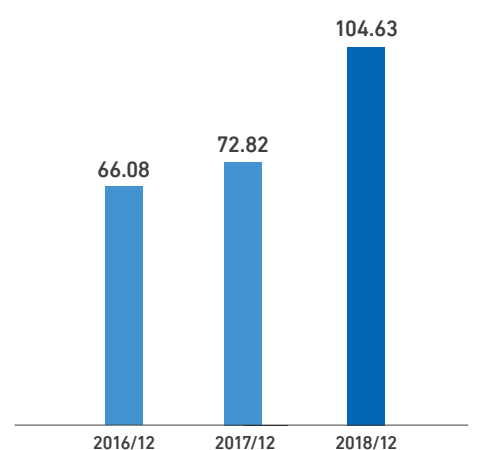
### 親会社の所有者に帰属する当期利益

(百万円)



### 基本的1株当たり当期利益

(円)



# 事業概況

## 工業部門

売上収益 **104,501** 百万円  
(前期比22.6%増)

セグメント利益 **8,140** 百万円  
(前期比8.0%増)

## 医療部門

売上収益 **60,824** 百万円  
(前期比9.2%増)

セグメント利益 **5,582** 百万円  
(前期比41.3%増)

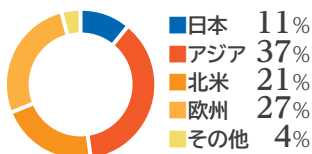
### ■ インダストリアル事業

ポンプ・システム製品の製造・販売・メンテナンスを行っています。



#### 売上収益

**76,763** 百万円  
(前期比28.5%増)

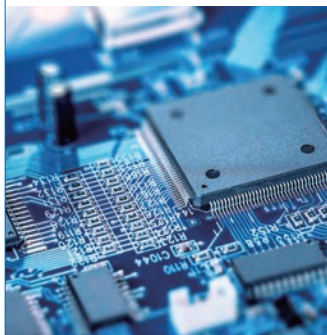


#### 当期のポイント

- クライオジェニックポンプ案件の好調がインダストリアル事業全体を牽引し、増収増益。
- 2017年後半からの原油価格上昇に伴い、原油・ガス採掘など上流分野の受注は増加傾向。中・下流分野となる石油化学市場においては、北米、中国を中心に投資が継続、好況を維持。
- LNG・ガス関連事業では、LNG市場向け大型クライオジェニックポンプの引合いが活発化。また、産業ガスはアジア地域での半導体、医療関連事業向け受注伸長。

### ■ 精密機器事業

発電プラント向け水質調整装置・電子部品製造関連装置等の製造・販売・メンテナンスを行っています。



#### 売上収益

**10,682** 百万円  
(前期比8.5%増)

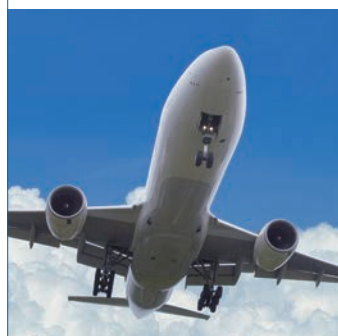


#### 当期のポイント

- 半導体製造業界向けの新型温水ラミネーター装置の受注が伸長、積層セラミックコンデンサーの用途拡大に伴う世界的需要の増加に対応するため生産供給体制の整備、強化を推進。
- 発電所向け案件は、国内は低調となるも、海外、特に東南アジア向けの水質調整装置の引合いが増加傾向にあり、台湾子会社の活用によるコスト競争力強化と営業活動の強化を推進。

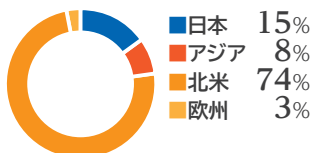
### ■ 航空宇宙事業

航空機の逆噴射装置用関連部品を中心に炭素繊維強化プラスチック製品の製造・販売を行っています。



#### 売上収益

**16,909** 百万円  
(前期比8.7%増)



#### 当期のポイント

- 主力製品であるカスケードの需要が回復し、出荷数は前期比伸長。
- 部材の内製化による原価低減や、東村山工場でのエンジン部品製造の安定化により、宮崎新工場に係る先行経費をカバーし、営業利益も前期並みに推移。
- 2018年10月宮崎新工場、2018年11月ベトナム ハノイ第2工場と新たな2拠点が竣工し、航空機需要の増加に応じた生産拡大への備えが完了。

### ■ メディカル事業

血液透析に関連した製品や、人工臓器装置などの医療機器の製造・販売・メンテナンスを行っています。



#### 売上収益

**60,824** 百万円  
(前期比9.2%増)



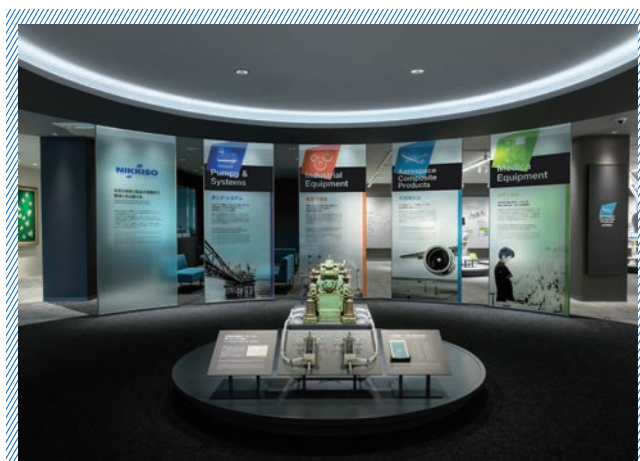
#### 当期のポイント

- 血液透析事業では、国内市場の透析装置需要は当第2四半期以降回復、血液回路等の消耗品全般の販売も伸長。海外市場では中国市場向けノックダウン部品販売が牽引し、事業全体で増収増益。
- CRRT事業では中国の販売体制再編等の施策が奏功して装置および消耗品販売が増加するも、開発体制の見直しや事業再建に関連する一時費用が営業利益を押し下げ。

# 株主様向け 工場見学会の ご案内

株主の皆様へ当社へのご理解を  
一層深めて頂けるよう

株主様向け工場見学会を開催いたします。  
是非ともご応募ください。



宮崎日機装の管理棟には、巨大な展示スペースもあり、実物大の航空機部品や、大型の特殊精密ポンプ、日機装が日本で初めて開発した人工心臓など、ここでしか見られない製品を展示しています。

## 宮崎日機装 航空宇宙工場

2018年10月に竣工した宮崎日機装は、日機装最大の製造拠点です。航空宇宙工場では、世界シェア9割を超える航空機部品「カスケード」を生産しています。

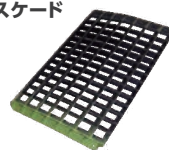
### 基本データ

所在地	〒880-2215 宮崎県宮崎市高岡町高浜1495番地63		
工場敷地面積	122,000m <sup>2</sup>		
総延床面積	38,600m <sup>2</sup>	・管理棟	6,200m <sup>2</sup>
		・航空宇宙工場	32,400m <sup>2</sup>
竣工	2018年		

### 主要製品品目

#### CFRP(炭素繊維強化プラスチック)製カスケード

「カスケード」は、航空機が着陸する際、ブレーキを補助するジェットエンジンの逆噴射気流を制御する役割を果たしており、ジェットエンジン1基あたり十数個装着されています。



### 応募方法

郵便はがきに必要な事項をご記入の上、ご応募ください。

日 時： **2019年10月11日(金)**  
10:00~12:00(予定)

対 象： 2018年12月31日現在、  
当社株主名簿に記載の株主様<sup>\*1</sup>

集合・解散： 宮崎空港or宮崎駅

参加費： 無料<sup>\*2</sup>

募集人数： 15名(同伴者含む)

応募締切： 2019年4月30日(火)

当選発表： 2019年5月下旬

<sup>\*1</sup> 小学生以上、同伴者様は1名まで可

<sup>\*2</sup> 往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

### 宛名面

〒150-6022

東京都渋谷区恵比寿4-20-3  
恵比寿ガーデンプレイスタワー  
22階

日機装株式会社  
経営企画部  
「株主向け見学会」係 行

### 裏面

- ・郵便番号
- ・住所
- ・氏名(ふりがなをご記入ください。)
- ・電話番号
- ・性別
- ・年齢
- ・同伴者の住所、氏名(ふりがな)、  
電話番号、性別、年齢

- ・ご応募多数の場合は抽選とさせていただきます。ご当選者様の発表および見学会内容の詳細は、発送をもって代えさせていただきます。
- ・複数枚でのご応募はご遠慮願います。
- ・見学会開催時、施設内の階段の昇り降りなどでお歩き頂く場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ・荒天等、諸般の事情により内容を変更又は中止する場合がございます。その場合はご当選者様にご連絡させていただきます。
- ・見学会の様子を撮影した写真を当社ホームページや株主通信等に掲載させて頂く場合がございます。あらかじめご了承ください。

個人情報の取り扱い  
今回ご応募頂きました株主様およびご同伴者様の個人情報は、本見学会の実施以外の目的では一切使用いたしません。

会社概要

創業日 1953年(昭和28年)12月26日  
(登記上の設立日は1950年3月7日)  
資本金 6,544,339,191円  
従業員数 連結8,169名(単体1,983名)

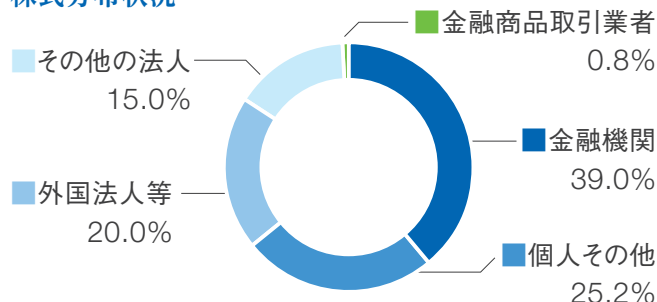
株式の状況

発行可能株式総数 249,500,000株  
発行済株式の総数 74,286,464株  
(うち自己株式3,098,991株)  
株主数 8,783名

役員・執行役員 (2019年1月1日現在)

代表取締役 社長	甲斐 敏彦
取締役 副社長	中村 洋
取締役 常務執行役員	藤井 章太郎
取締役 執行役員	鹿野 直太
取締役 執行役員	中東 久和
取締役 執行役員	木下 良彦
社外取締役	長友 英資
社外取締役	広瀬 晴子
常勤監査役	伴 信彦
常勤監査役	飛田 健司
社外監査役	中久保 満昭
社外監査役	棟田 裕幸
執行役員	長門 祥一
執行役員	小糸 晋
執行役員	山村 優
執行役員	泉 幸慶
執行役員	渡辺 恭介
執行役員	大澤 晃
執行役員	中村 干城
執行役員	戸村 健二

株式分布状況



大株主一覧(上位10社)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,413	6.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,951	5.55
日機装持株会	2,628	3.69
株式会社みずほ銀行	2,500	3.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,151	3.02
三井住友海上火災保険株式会社	1,966	2.76
ジェービー モルガン チェース バンク 385632	1,888	2.65
日機装従業員持株会	1,849	2.59
日本生命保険相互会社	1,650	2.31
株式会社三菱UFJ銀行	1,622	2.27

※当社は、自己株式3,098,991株を保有していますが、上記大株主から除いています。  
※持株比率は自己株式を控除して計算しています。

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで  
 定時株主総会 毎年3月  
 基準日 定時株主総会:毎年12月31日 期末配当:毎年12月31日 中間配当:毎年6月30日  
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
 <郵便物送付先> 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 <電話照会先> 0120-782-031(フリーダイヤル)  
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。  
 単元株式数 100株  
 公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。  
 公告掲載の当社ホームページアドレス https://www.nikkiso.co.jp  
 上場証券取引所 東京証券取引所(証券コード6376)

■住所変更、単元未満株式の買取・買増等の取り扱い先について

住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求につきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で取り扱います。お取引をされている証券会社等にお問い合わせください。

なお、特別口座にて管理されている株式については、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社での取り扱いとなります。お問い合わせ先は上記のとおりです。